

東日本大震災から四年を迎えて

東北地方整備局 酒田港湾事務所長
清水 純



未曾有の東日本大震災から4年経ちますが、山形県でも今なお避難生活を送られている方々が4千人以上おられます。震災で被害に遭われた方々に改めて、お悔やみ・お見舞いを申し上げます。

<東日本大震災時に酒田港が果たした役割>

東日本大震災時は、地震や津波で壊滅状態となった太平洋側の港湾の代替として、酒田港もその役割を果たしました。

ガソリンなどの石油製品は、太平洋側の精油所が被災し、燃料供給能力が激減したことから、西日本の精油所で増産された石油製品が、酒田港を經由し被災地に供給されました。

家畜のえさとなる飼料については、被災地周辺の飼料工場が操業を停止したことから、北海道や西日本の飼料工場で増産された飼料が、酒田港を經由し被災地に供給されました。

コンテナ貨物については、太平洋側のコンテナ埠頭が被災したことから、酒田港が代替機能を果たしました。

<地域の経済活動を支える酒田港>

酒田港では、大手日用品メーカーの紙おむつ工場が新設され、昨年4月より輸出を開始したことなどにより、コンテナ貨物量が大幅に増加しております。これに伴い、国際定期コンテナ便が週2便から週4便となり、2社目の船会社も航路を開設しています。新たな工場建設により、設備投資や新規雇用が生まれ、地域経済の活性化に寄与しています。

酒田港には、港周辺に、多くのリサイクル関連企業が立地しています。酒田港は、全国的にみても船舶によるリサイクル貨物輸送が活発に行われており、港がこれらの企業活動を支えています。

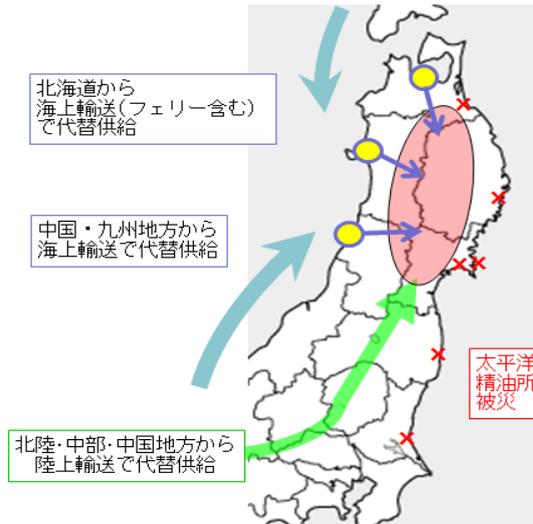
東日本大震災に伴う原子力発電所運転停止に伴い、酒田港に立地する火力発電所では、フル稼働が続いています（定期点検時を除く）。当事務所では、石炭船をはじめとする大型船の貨物輸送を支えるため、航路・泊地の浚渫を行っています。

また、これらの貨物を安定的に輸送できるよう、当事務所では、防波堤の延伸・嵩上げに取り組んでいます。今後とも、地域のニーズに対応した仕事を進めていきたいと考えておりますので、引き続きご支援・ご協力の程よろしくお願いいたします。

■ 東日本大震災で酒田港が果たした役割

被災した太平洋側港湾の代替として、ガソリン、飼料等を北海道・西日本から海上輸送し、酒田港で受け入れ、被災地等へ供給。

- 石油製品(ガソリン等)、飼料などを日本海側港湾から供給



- 震災後の酒田港の貨物量が増加

酒田港の状況(3月11日～6月30日)

区分	2010年 (3/11～6/30)	2011年 (3/11～6/30)	変化(変化率)
入港船舶数	251隻	325隻	74隻 (1.29倍)
貨物量	1,032,636トン	1,252,443トン	219,807トン (1.21倍)
コンテナ数	1,856TEU	3,814TEU	1,958 TEU (2.05倍)

出典：港湾統計

- 震災直後に増加した貨物
(2011年4月の対前年比)

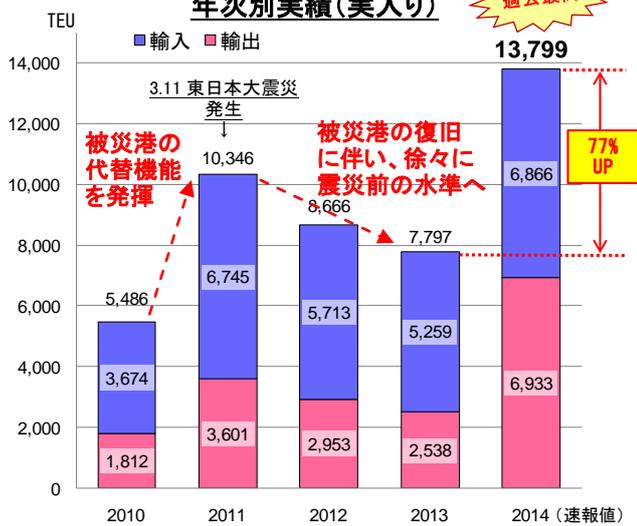
肥料・飼料 : 2.1倍 重油 : 2.7倍
セメント : 2.5倍 石油製品 : 1.2倍

※ その他、震災前にはほとんど取扱のない鋼材や製材が取扱われた。

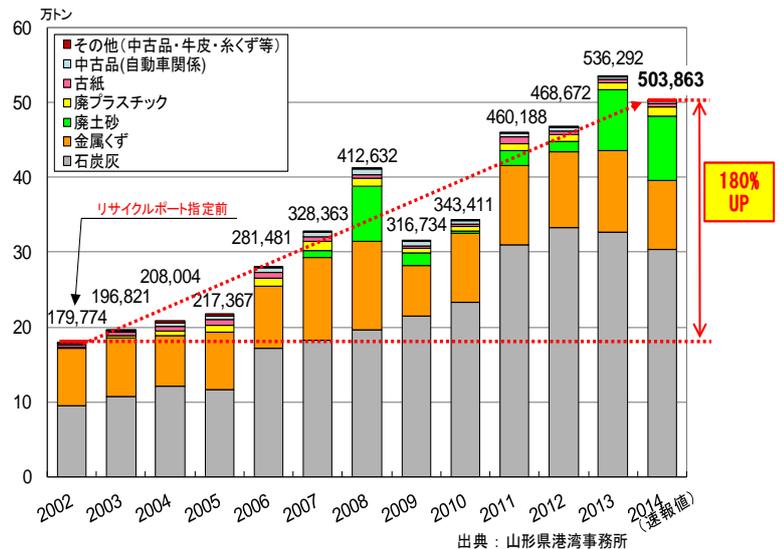


写真提供：山形県港湾事務所

■ 外貿コンテナ貨物取扱量 年次別実績(実入り)



■ 酒田港のリサイクル関連貨物取扱量の推移



■ 平成 26 年度 酒田港工事写真



泊地(-13m)外 ポンプ浚渫工事



第2北防波堤 上部嵩上げ工事



国土交通省 東北地方整備局 酒田港湾事務所
〒998-0061 山形県酒田市光ヶ丘5丁目20番17号
TEL : 0234-33-6311 (代表)
URL : <http://www.pa.thr.mlit.go.jp/sakata/>